

学校教育目標	思いやりのある生徒 真剣に学ぶ生徒 健康な生徒
目指す学校像	確かなコミュニケーションを基盤にした 自律・進取・友愛の気概溢れる我らが学び舎 “チーム城北”

重点目標	1 自己実現につながる確かな学力の定着・向上 2 自己実現の基盤となる豊かな人間性を育む教育の推進 3 コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進 4 安心・安全を実現する教育環境整備の推進 5 チーム城北の強化と働き方改革の推進
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価			学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和 年 月 日
1	【現状】 ICT機器の効果的活用については、校内の研修及び活用体制が整い、教職員のスキル個人差も少なくなってきた。基礎学力の向上のための小・中連携の取組を精査し実施している。 【課題】 ○主体的対話的で深い学びを通じた「真の学力」と学習習慣の定着。 ○生徒の生涯にわたって学ぶ意欲の育成やキャリア形成についての視点をもたせ、地域に貢献できる資質の向上。	ICTの効果的な活用による「リアルな学び」を通じた主体的対話的で深い学びの充実	①「対話の場面」か「iPadの活用場面」を設定した1人1公開授業の実施(2学期)と相互授業観察の実施。 ②教科の特質に応じた「少なく深く学ぶ」教育課程の実現に向けた授業実践の研究	①全教職員の「学びの指標」授業アンケートの結果の平均点が、1回目よりも2回目が高かったか。 ②学校評価の教職員の個々に設定した目標について、8割の教員が目標を達成することができたか。				
2	【現状】 生徒指導主任・教育相談主任を中心に、課題の早期発見早期対応のための情報共有が関係職員で行っている。発達支持的生徒指導の視点に立って学校行事や日常の学校生活における自治的活動の指導に学校全体で取り組んでいる。 【課題】 ○不登校生徒への対応について、外部機関との連携・協働を一層強化する必要がある。 ○困り感をもっている生徒のキャッチアップと、その困り感に対して、多様な視点で解決策を練り、対応すること。 ○学びの場や居場所、学び方などの選択肢の幅を広げ、多様な個性や特性を包摂することができるよう支援の幅を広げる必要がある。	エージェンシーの育成	①生徒が自己決定を実感することができる発達段階に応じた特別活動の設定 ②学校運営協議会への生徒の参加 ③生徒の自己決定と行動、その見取りと助言を行なう細やかな指導	①③生徒の学校評価「先生方は、生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれていますか。」の評価が昨年度よりも向上したか。保護者については、肯定的な回答の割合を維持できたか。 ②生徒代表が学校運営協議会に参加することができたか(年1回)				
3	【現状】 昨年度の小・中合同研修会において、教職員が9か年協働して児童生徒を育成していこうという意識の共有を図ることができた。また、学校運営協議会において育成したい生徒像について承認を得ることができた。 【課題】 ○保護者は協力的である一方、学校教育への関わり方には差がある。コミュニティ・スクールの枠組みを活用し、学校の実態理解と参画を促す機会を計画的に設け、学校・家庭・地域が同じ目標を共有できる体制づくりが課題である。 ○地域の伝統や文化を尊重し継承するとともに、郷土を愛する態度を育成する必要がある。	小・中一貫教育の充実	①小・中合同研修会における、9か年で育成したい児童生徒の資質・能力とその育成に向けた改善策の共有(9年後を見据えて) ②小学校高学年保護者に向けて、中学校の行事や講演会等の情報提供(案内の発出)を行い、保護者の参画機会を広げることで、小・中一貫の連携強化と学校・家庭の目標共有の推進	①研修会において9か年共通の育成したい児童生徒の資質・能力の整理、及び改善策の文書化作成と、実践共有を1件) ②案内発出を小学校高学年の保護者に向けて派出できたか。また、案内の多様化(紙+スクリーン+学校HP等)と複線化できたか。				
4	【現状】 Sola 一むの開設運用により、教室復帰をする生徒が見られた。また、教職員の理解により、いつでもSola 一むを開設する状況を維持できている。校地が広く、校舎等の老朽化は多岐にわたり、樹木草花も多くみられ、手入れが大変である。 【課題】 ○危機管理に対する教頭や学年主任等の意識が高く、事故ゼロの状態を保っているが、経験年数の浅い教職員が増えていることから、生徒のきめ細やかな実態把握や教職員の更なる危機管理能力の育成、組織的な対応が必要である。 ○生徒の安全と教職員の働き方に係る修繕を積極的に進める必要がある。	教育効果を十分に発揮するための教材備品の充実、安心・安全な学校施設の整備	①教材備品の点検を実施し、使用頻度・劣化状況・学習効果の観点から優先順位を付け計画的な整備の実施。 ②Sola 一む等の学びの場で活用できる基礎学力の補充教材を整備し、学習の継続と教室復帰を支える学習支援体制を充実させる。	①向こう3年間を見通した教材備品の整備計画を立てることができたか。 ②小学校1年生～6年生までの補助教材を準備し、学び直しが必要な生徒の把握とその支援を行うことができたか。				
5	【現状】 ICT機器を活用した校務の負担軽減を図り、一定の効果が出てきた。教職員の学び合いにより教職員の指導力の向上を推進している。Plant を活用し、キャリア段階に応じた研修の受講に努めている。 【課題】 ○全体的にみると時間外在校時間の縮減を図って成果が見られるが、40時間を超える職員も数名みられる。 ○長期的な経営視点から「授業参観シート」を基に、教職員の資質向上に向けた研修を計画的に行う必要がある。	教職員のキャリアの幅を広げる職員研修の奨励と個人のニーズに応じた研修の充実	①日常的な教室訪問を通じた授業観察を通じた実態把握と、対話に基づく受講奨励の実施 ②研修主任を中心とした校内研修体制の整備と、管理職による研修の支援	①自己研修を実施した職員の割合80%以上あり、研修成果を職員会議等で報告・共有できたか。 ②相互授業参観の実施に向けた研修会の枠組みの作成と実施、2学期の授業公開と参観を実施することができたか。				
		持続可能な地域との連携体制の確立	①関係機関と連携した計画的なボランティア活動の募集による地域と協働体験の機会を増やすし参加を促すことで生徒が地域の一員として役に立った実感をもたせる。 ②不登校生徒に対する関係機関と連携した支援体制の構築	①学校ホームページや学校便り等を活用して生徒や保護者に向けて、活動への啓発を行えたか。 ②民生委員等の関係機関と連携するための情報共有会議を実施し、生徒の見守りや提供された情報を基に対応を進めることができたか。				
		誰にとっても安心して学習のできる学習環境と教材の整備	①危険箇所の把握と修繕の優先順位付けを実施し、事故防止と迅速な修繕対応を推進。 ②ユニバーサルデザインの観点から教材・掲示・教室環境を見直し、困り感を抱える生徒も学びに参加しやすい環境を整備する。	①月例の安全点検を確実に実施し、施設に起因する事故を0とする。 ②学びの場の選択肢数を増やし、学校評価による生徒アンケート項目「真剣に学ぶ生徒」、「授業の指示が分かりやすい」の肯定的な評価の上昇				
		市立学校における働き方改革マスタープランに基づいた働き方改革の推進	①仕事に対して困り感をもつ職員のフォローアップをねらった管理職によるヒアリングの実施 ②マスタープランとヒアリングに基づいた校務分掌の見直しの実施	①勤務時間外在校等時間が40時間を超える職員や仕事の滞りが見られたり申し出があったりした職員に対し、管理職からのヒアリングをすべて実施したか。 ②校務分掌において課題とされている業務を職員からヒアリングを年3回行い、学校業務の効率化等の改善に活かす。				

学校運営協議会からの意見・要望・評価等